

■事業報告

国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー

平成24年5月19日(土)

5月18日の「国際博物館の日」は、博物館が社会に果たす役割について広くアピールするため、国際博物館会議（略称ICOM：イコム）によって提唱され、昭和52年（1977）に設けられました。

当館では、この「国際博物館の日」を記念し、当日は入館料を無料にしています。また、「国際博物館の日」に近い週末には、年に一度のイベントを開催しています。なかでも、ふだんお見せすることのない博物館の舞台裏を特別にご案内する「県博バックヤードツアー」は非常に好評で、平成18年度以来、継続実施してきました。

バックヤードツアー当日は、学芸員総出でお客さまをお迎えし、日ごろ職員がデスクワークをする事務室、資料を保管

する5つの収蔵庫、資料環境を維持管理するための消毒室・空調機械室などをご覧いただいております。

参加したお客さまからは「展示室以外にたくさんの資料が保存されているのがわかりました。維持するのが大変そうですね。今後ともがんばって下さい。」「30年を経た建物とは思えないほど立派で、良く管理されていることに敬意を感じました。」「収蔵庫が狭すぎる。新しく増築が必要ではないか。」「バックに多くの資料があり、もっと展示替えに活用してほしい。」など、貴重なご意見・ご感想が寄せられます。こうしたお声は、私たちの励みとなり、また博物館を運営していくための大きな課題となります。

ところで、例年「靴の着脱が多いので

改善して欲しい」「もっと自由に歩かせて欲しい」「よい企画なのだから毎週やって欲しい」「たくさん撮影したい」というご提案もいただきます。これにつきましては、「岩手県の共有財産である収蔵資料の適正な保管管理」のために様々な制限や禁止事項のもと実施している事業であることをご理解いただきたいと思います。（専門学芸員 川向富貴子）



■事業報告

伝統芸能鑑賞会「^{うねとり}鵜鳥神楽」

平成24年6月3日(日) 午後1時30分～3時 鵜鳥神楽保存会 於 民家 旧佐々木家住宅(南部曲家)

伝統芸能鑑賞会は新たに文化財に指定されたり、なかなか見る機会に恵まれないうといった芸能を紹介しています。今年は普代村の鵜鳥神楽保存会のみなさんに民家で鵜鳥神楽を披露してもらうことにしました。

鵜鳥神楽は普代村にある鵜鳥神社に伝わる神楽です。鵜鳥神社は特に漁の神さまとして篤く信仰され、旧暦4月8日の例大祭には多くのにぎわいを見せます。神社のある^{うねとり}卯子酉山は海拔424メートルの秀峰で、山頂には奥宮とよばれる本殿があります。ここからは眼下に太平洋が望まれます。漁師にとって絶好の目印になったにちがいありません。

また一方で、鵜鳥神楽は「陸中沿岸地方の廻り神楽」として有名です。この廻

り神楽とは、年の初めにゴンゲンサマ(獅子頭)を携えて、家々を廻りながら、厄祓いや祈祷をすることです。夜には、宿で神楽を舞います。

この巡業はいまでも行われていて、黒森神楽(宮古市)と交互に北廻り(久慈市方面)と南廻り(釜石市方面)を繰り返しています。年の初めに行われることから、地元では春を呼ぶ神楽として喜ばれています。

平成8年、宮古市の黒森神楽とともに国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。また、鵜鳥神楽は平成23年県の無形民俗文化財に指定されました。



三陸沿岸は昨年、大津波の被害に見舞われました。心よりお見舞いを申し上げます。今回はその復興の一助になればと思い、公演をお願いしました。お忙しい中、熱演していただきました。ありがとうございました。

(主任専門学芸調査員 瀬川 修)